

□ 演番
号

ここは空欄のまま
をお願いします。
講演番号を入れ
る予定です。

□ 演タイトル

左右余白 2.5 cm
上下余白 3.0 cm

第 5 回 学 術 大 会 を 下 記 の と お り 開 催 し ま す

* 藤井紀子¹，玄番央恵²，功刀由紀子³

(1 京 都 大 学 ・ 原 子 炉 研 究 所 ， 2 関 西 医 科 大 学 ・ 医 学 部 生 理 学 第 二
講 座 ， 3 愛 知 大 学)

現在、私達を取り巻く自然環境および社会環境
技術の理解なしには解決できない問題が次々と顕
す。一方、科学や技術の推進に際しては、高度の
され、しかも地球環境そのものへの配慮の必要なことが少しずつ明
らかになってきております。このような状況下、研究者は自己の研究
にひたす
に没頭する
先端科
妊治療での
ような対応

文字はすべて、12 pt、MS 明朝使用。
ページ設定は、30文字 x 35行、本文
字数は500～600字程度でお願いし
ます。例文は22行(660字程)です。

著者、所属

複数の場合は、上付き数
字、演者名には*の添付を
お願いします。

あるいは、自己
。は再生医療や不
、研究者はどの

サイエンスコ
ーションという言葉が、最近社会に浸透
しつつあります。科学を、一般市民にわかりやすく説明する活動と
解釈されているようで、「サイエンスカフェ」なるサロンの活動が
全国展開されています。また、サイエンスコミュニケーションを大
学院の正課として設定している大学も存在しますが、こちらは研究
者の倫理性涵養を意図している様子が多分に覗われます。

さらに、リスクコミュニケーションにまで考えを広げると、一般
市民における科学の理解により、自発的なリスク回避行動が誘発さ
れることが期待されています。このように、サイエンスコミュニケ
ーションの含意は、単に科学をわかりやすく説明するだけでなく、
そこに関わる研究者や一般市民の、意思決定や行動にも影響を与え
る活動、と考えなければならないようです。